

かまくら LIBRARY 図書館 だより
SINCE 1911
No.101

鎌倉市図書館のホームページ
蔵書検索、所蔵資料の予約、ご自分で借りている
ものの確認などができます。
休館日や開館時間の確認にもご利用ください。

パソコンから
<https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp>
携帯電話から
<https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/i>

はじめに

10月の文化財週間にちなみ、昨年講演の記録を発行します。
また、同時企画として世界遺産関連展示します。
世界遺産、鎌倉を知るための手がかりとなる本のリストや情報源も発行します。

◆◆◆ 文字・活字文化の日 ◆◆◆



「鎌倉の世界遺産ってなに?—中世鎌倉の魅力」

平成19年10月27日(土)
午後2時~4時
於：中央図書館多目的室
講師：玉林美男氏
(市世界遺産登録推進担当)



今回の図書館だよりでは、講演記録を集録しました。「武家の古都・鎌倉」として世界遺産登録をすすめる中でわかってきた鎌倉の歴史の魅力に迫ります。

*この講演は2007年10月27日(土)(14時~16時) 中央図書館にて行われたものです。
次のページより

今日は世界遺産をキーワードにしながら、鎌倉の歴史史料や考古学の話をしたしたいと思います。

1 鎌倉が世界遺産登録の候補に

今から15年前の1992年、日本国がユネスコの世界遺産条約を批准しました。そして世界遺産に登録する予定の物件（暫定リスト）を10件ほどユネスコに提出したのです。その中に古都鎌倉の寺院・神社他ということで鎌倉がノミネートされ、その時から準備が始まりました。

2 ノミネートから15年

当時の衆参両院の外務委員会の記録を見ると、世界遺産登録にあたって、どういうものを登録するかという記録があります。それによると、重要文化財の中の国宝、史跡の中の特別史跡、名勝の中の特別名勝などを世界遺産の候補にすると国会の中で答弁しています。

それでは鎌倉に国宝はいくつあるか？世界遺産になるのは土地に密着した不動産です。鎌倉に不動産で国宝はいくつあるかという、円覚寺の舍利殿一つしかない。それに不動産かな？というのが大仏様です。大仏様は彫刻で実は何度も動いています。地震の時や修理の時も動かしたので不動産扱いされていない。

史跡というのはお寺さんの境内など、名勝というのは庭園のようなものと思ってください。その中でも国宝クラス、特別史跡、特別名勝が世界遺産登録の対象とされていますが、そういうものは鎌倉にはありません。

そこで事務局ではまず「鎌倉の価値を見直す」本来保護すべきものをどうやって保護していくか」それを検討することになりました。

3 大仏殿の発掘

大仏様は国宝ですが、本当にあそこで作られ、あそこにずっとあったのかどうかは、わかりません。また大仏殿もあったとされていましたが、どんな大きさだったのか、どんな建物だったのか、これもわかっていない。大仏様がいらっしゃる土地自体が文化財保護法上、文化財として保護されていませんでした。これではいけないということで発掘調査をして大仏殿跡を見つけたんです。それで大仏様は大仏殿跡の構成要素ということになりました。



鎌倉大仏殿 礎石下の根固め遺構

4 要害の地 鎌倉

鎌倉は防備にすぐれた土地であると言われます。頼朝が安房にいた時、千葉常胤は「さしたる要害の地にあらず、、、(中略)、すみやかに相模国鎌倉に出でたもうべし」(「吾妻鏡」)と伝えています。

このことから、逆説的に鎌倉は要害の地であると言われています。安房(当時頼朝がいた場所)と比べて要害の地なんです。

5 城郭都市

亡くなられた大三輪龍彦(おおみわ・たつひこ)先生が中世の土木遺構を示す鎌倉城、城郭都市あるいは城砦都市という点を、世界遺産登録の一つの切り口にしてはどうかと提案され、議論となりました。

そこで平成12年に山陵部の調査を行いました。確かに山は加工されていないところ

はほとんどないと言っていいくらいでした。それがわかったのは山の頂上部分からかわらけが出土したからです。これは地祭り、土地の神様を祀って（土公祭）それで山に手を入れていたことを示しています。

長谷観音の山の尾根を掘った時に合わせ口のかわらけが出土しました。そういうことが行なわれたのは13世紀後半です。

鎌倉が城砦都市と言われる一つの鍵が、九条兼実の「玉葉」という日記で、この中に頼朝が反乱軍の当主であった頃、鎌倉城に入ったという記述があります。ですから当時から城砦があったと考えられるのです。鎌倉市史の考古編や三浦半島城郭史に、鎌倉城に関する記述があります。鎌倉城という考え方は、鎌倉市史以来ずっとありました。

12世紀末に鎌倉城という言い方が出てきますが、切り岸（崖を垂直に切ったもの）があり、山の上に平場があり、そういうものの特徴的な場所の一つが切通であると理解されています。

最近の研究ですと、「城」という字は、平安時代の終わりぐらいは反乱軍の拠点を示す言い方だったようです。

源頼朝が1183年に元の官位に復した時には鎌倉城という言い方はしていません。反乱軍でなくなったら「城」が消えます。

このように、今のイメージの「城」と、当時の文字が表す意味は違います。

一方、鎌倉の山は人工的な手が加わっていて防御性に優れているという理解には変りはありません。

6 武家の王権

世界遺産という仕事をしている中で、最近いろいろな先生とお話しする機会ができました。世界遺産の仕事は、日本史の最先端の切り口での仕事ではないかと思います。そういう中での一つの話が日本の王権論です。「武家の王権神話」という資料を作ったのですが、よく皆さんから「鎌倉は都ではないのではないか？」という質問を受けま

す。我々はいつも名分に振り回されている部分があります。都とは何なのか、日本では奈良、京都を都と言ってきました。もう少し古く、藤原京や飛鳥京を都と言っていた時代もあります。我々の意識の中で都というのは天皇陛下がいらっしゃる場所、いらっしゃるしないと都ではないという意識が頭の中にあるかもしれません。

しかし、都を、政権として考えると、政権が置かれた場所ということになります。鎌倉は武家政権が置かれた場所だから武家政権の首都という言い方ができます。

最近、本郷和人さんが『武士から王へ』という著書で、実態がある政治機構・支配力を前提とした武家の政権なのだと言いつつ、王権というものは、他の人から与えられるものではなく、自ら立つ、そして自ら律していくんだということです。鎌倉が一つの王権と言えるかどうかは、まずは頼朝が反乱軍から出発したことに注目しなければいけません。反乱軍は、武力で、敵対するものから土地や財産を奪い取って確保して恒久的に維持し続けることが必要になってきます。その支配領域は他のものの干渉を許さないということになります。それが確固たるものかどうか問われるのが頼朝の時代です。

まずは一つの王権として、平家の西国の王権がありますね。これは安徳天皇をいただいた朝廷をそのまま西国に移した王権ですが、所在地が定まらないという弱点があります。京都には後白河を中心とした院があり、東国には木曾義仲を中心とした勢力と頼朝を中心とした勢力があり、奥州には藤原氏という勢力があるという分立状態です。そういう中であって、自らの支配領域を確保し、他からの干渉を許さないということは、一つの王権が成り立っているのだらうと思います。他の敵対者を滅ぼして、自らの権限を他に認めさせていった過程が、鎌倉幕府の成立過程ということになります。

7 鎌倉幕府成立の時期

鎌倉幕府の成立は、その段階の取り方によって1180年、1183年、1185年、1190年、1192年といくつもの説があります。1180年、頼朝が反乱軍として立ち上がって伊豆の山木攻めをした時点は、反乱軍として立ち上がっただけで領域支配を始めていません。成立時期とされる一つは1180年の10月6日。頼朝が南関東一円、東京湾を一周して付近の武家勢力を糾合して鎌倉に入った時。もう一つのポイントは、そこから黄瀬川の戦い・佐竹征伐から帰り、その後大倉の自分の館に入る12月12日です。御家人たちが自分達の棟梁として頼朝を鎌倉の主として認めあった12月12日を境にして、御家人達が鎌倉に館を構え、鎌倉がまちになったということが吾妻鏡に書かれています。

鎌倉で今、実年代がはっきりしている一番古い土器は、永福寺の阿弥陀堂の基壇の中から出てきたほぼ完形に近い大きな手作りの土器「かわらけ」です。永福寺の造営は1190年から始まって1195年には全部の堂が建ちます。他からの混ざりこみというのは考えられないので、地鎮祭をやってそのときに使ったかわらけを埋め込んだと考えるのが常識的な考え方だと思います。

これ以前は漁師とか農民とかそういう人以外はあまり住んでいなかったと考えられます。

8 海上交通の要所

鎌倉という場所がなぜ政権の所在地として選ばれたのかということを見ると、義朝の屋敷があってそれを引き継いだからということが前から言われています。ではなぜ義朝の屋敷があったのでしょうか。

「詞林采葉抄」(しりんさいようしょう)の中で、平忠常の乱を鎮めた源頼信、その子の頼義に、平直方が自分の館を引き継がせて、源氏の拠点になったとされていますが、実は、一時期、源氏の所領は何百ヶ所もあ

りました。あまりに所領が増えて、権力が大きくなったので、中央政権の中で、源氏排斥が始まって変わりに平氏が出てくるということになるのです。関東地方にもたくさんありました。その中でなぜ鎌倉が選ばれたかという議論を世界遺産の議論の中でやってきました。

タイムリーに出てきたのが、逗子の桜山古墳です。なんであの場所に4世紀前期の100メートル級の前方後円墳があるのでしょうか。前方後円墳は大和朝廷とかかわりのある豪族の墓だといわれています。

逗子は相模湾の中で、陸化がかなり遅い場所です。まず相模川の河口部分が陸化して、それから茅ヶ崎、藤沢、鎌倉そして逗子の順に陸化してくるのですが、皆相模川の流域から土砂が海流によってたくさん運ばれて砂丘ができていって、手前の砂丘が埋まると次の砂丘ができていきました。逗子はまだ陸化していない時期でした。

陸化していなければ耕地がない。人を食わしていきけるだけのベースがないのになんであんなところに前方後円墳ができたのだろうか。船の航路を支配するような豪族の墓ではないか。房総にも後ろに耕地をひかえていない前方後円墳があって、大和朝廷の関係で海上交通を支配する豪族の墓ではないかと言われています。そして6世紀になると逗子は古墳がなくなります。その勢力が鎌倉に来たのではないかと考えられます。古墳の跡はわかりませんが、采女塚(うねめづか)の形象埴輪(けいしょうはにわ)みたいなものが出ています。

鎌倉では、巫女の埴輪、馬の埴輪、武人の埴輪、円筒埴輪が出土していますが、埴輪が出てくるような後期古墳が形成された、つまり逗子から鎌倉に移ったんです。

鎌倉に移って鎌倉は屯倉(みやけ 天皇の領地)になる。だからこんなに小さなところが、鎌倉郡の所在地になる。いわゆる在地勢力によってできてきた政治拠点ではないということです。

相模湾と東京湾を分ける三浦半島の付け根の一番狭いところにある鎌倉と逗子は海上

交通の拠点としてはやくから意識された場所です。残念ながら、逗子は人を養えるような平地がまだ形成されていなかったのに鎌倉に拠点が移され、それを武士が代々受け継いで交通の要所としてずっと維持してきた、というふうに考えられます。しかし、残念ながらそれを表す遺跡は出てきていません。

ある部分それを表すのが御成小学校の郡の館の遺構です。

なぜ、郡の遺跡という言い方をしたかという、「糶五斗」(びごと)と書かれた木簡が出てきました。軍団の所在地にかかわる木簡です。糶五斗というのは本来、郡の役所に納められるものではなくて、軍団に納められるものだそうです。古代国家の常備軍(軍団)がいた場所の遺跡というのは、大きな集落で兵士がたくさん駐屯しているわけですから、家がたくさん出てきます。コの字形の建物の配置をもたない遺跡なので、むしろ地方の政治的な拠点である郡衙と考えた方がいいでしょう。郡衙の修理にあたり、20年に一度、干米(ほしいい)を換えるそうです。それを放出して官舎の修理をしたと考えられます。

そういう流れの中で、鎌倉は東国の海上交通を押さえる大きな拠点を武士が継いできた場所であると言えます。

私たちは武家というときすぐ騎馬軍団と思ってしまいますが、必ずしもそうではなく、三浦氏は海の軍団と言われています。梶原氏も海との関わりがあるようです。1200年に滅ぼされますけれども、残った人たちは捕鯨で有名な三重の太地(たいじ)に住んで、戦国時代にはいわゆる海賊として活躍していて、小坪に拠点を持っていました。本拠は今の三崎のようです。

何年か前に、甲子園2号という船が、三崎沖から漂流して和賀江島で座礁してしまいましたが、三崎から流されると鎌倉へくるんだと納得しました。

そういう海流があって、否が応でも鎌倉に来る、そして陸路ですぐ東京湾に出られますから、本当に海上交通の要所だったんで

す。

要するに、鎌倉というのは海上交通の拠点であって、武家がずっとその場所を担保してきた場所で、そこへ頼朝が入ってきたんです。そして頼朝は他の権力に対抗するわけです。

9 源頼朝の権威

その頼朝の権威はどこから来たかという、八幡様の向こう側にこのあいだ御鎮座900年祭をした荏柄天神があります。頼朝より前の1104年に造られました。

頼朝は鎌倉に入ると、治承4年12月12日に鎌倉の主として大倉の館(現在の清泉小学校辺りにあった)に入ります。そこは、八幡様と天神さんにはさまれている場所です。それを今まで誰も考えませんでした、世界遺産のことがきっかけで、この評価をやりなおすことになったのです。

900年祭をきっかけに荏柄天神の本殿の屋根を直しました。文書があつて調べてわかったのですが本殿は元の八幡様の若宮社殿なんです。

震災で一回潰れかかって、その修理をした時の写真集を八幡様で見せてもらった、天正の年号の入った材が写っていたんです。何かというと、八幡様の「(鶴岡八幡宮修営)目論見絵図」というのがあります。天正年間に、秀吉は八幡様を参拝すると同時に大きな修理もしている。その時の年号が材の中に入っていました。

天正の目論見絵図の中に建物の大きさが書かれていて、それが今の本殿と大きさが同じなんです。もともと建築の先生は、八幡宮の若宮社殿を移したのが、荏柄天神の本殿だということに気付いていた。ところが、それを確かめる術がなかった。たまたま屋根の修理をして分かった。(秀吉が)修理しているので新しく入った材もあるだろうが、荏柄天神社の本殿は鎌倉末の建物なのです。そのあと持氏がかなり修理しているので、今残っている遺構が鎌倉末の材なのか、それとも持氏が修理した時の材なのか、もっ

と詳しく調べないといけなのですが、少なくとも焼けていない。基本は残っているという前提で、まず市が指定しました。それから国指定です。

荏柄天神本殿は鎌倉に残っている唯一の鎌倉時代の建物です。これを世界遺産の候補にしなければ何をするのだという話ですよ。

10 荏柄天神とは

では、荏柄天神とは何か？

10世紀の中ごろに藤原純友が西国で、東国では平将門が乱を起しました。平将門は、東日本で初めて朝廷とは別の王権を打ち立てた人です。

これらの乱は、朝廷が地方の反乱を鎮圧するために、地方の武士団を使用するようになる契機となり、そこから、源氏、平氏、藤原秀郷流などの武士団が形成されました。

東国で新しい王権が、一時ですけれど出来上がり、その位は八幡様が授けています。そして位記（任命書）をもらう。実朝も八幡様で位記をもらっている。鎌倉の將軍家は八幡様で儀式をやっている。本来は八幡宮を代理人にたてて内裏にお礼を言わなければいけない。『将門記』を見ると、むしろ位を授けてくれるのは八幡様で、八幡様にお礼を言うのが筋ということになります。位記は菅原朝臣、すなわち天神さんが書くのです。頼朝がわざわざ大倉に館を移して、小林郷北山に八幡様を移す。天神さんと八幡様の間に自らの館を建てたということは、『将門記』を引いて、自らが八幡神と天神によって東国の王になるのだということを表している。12月12日に大倉の館に入って皆が鎌倉の主として認めたとしたことなんです。

11 鎌倉殿とは

鎌倉の主は鎌倉殿（かまくらどの）と呼ばれました。ですから頼朝も実朝も鎌倉殿です。

『太平記』の中ではもう將軍が鎌倉殿では

なくなっていて北条高時を鎌倉殿と呼んでいます。政権のトップが鎌倉殿。『太平記』は当時の人たちの感性をもって書かれた物語ですが「日本国の主鎌倉殿ほどの…」というくだりがあります。政権というのは多くの人たちによって認められなければいけない。当時の人々は日本国の主は、朝廷のトップでもないし、將軍でもなく、鎌倉殿＝北条高時（得宗）だと思っていたということです。

12 御所の移転

源氏三代が終わると大倉から若宮大路の脇へ御所が移されました。大倉にいるということは、あそこは東国の王権を与える神様によって守られている、そこにいること自体が東国の王権を表していることになりまずから、これは私の推測ですが、そこから一刻も早く御所を動かさないといけないと考えたのではないのでしょうか。

神様によって保証されたものは否定できないですから、まずは守られている形をはずすために御所が移ったのではないかと私は考えています。北条義時は何が何でも御所を移そうとした。西方に親の墓（廟所）がある。西方に廟所があると子孫が絶える。その言葉を使って御所を移しました。

現場に行きますと、頼朝の廟所は西じゃなくて北の法華堂です。ですから従来は、吾妻鏡の記述の間違いだとされてきました。私は、法華堂跡の発掘調査報告書の中では北の間違いではなくて西でいいのだろうと考えます。というのは西には白旗神社があります。八幡様の中に今の上宮（本宮）の西側に江戸時代までは頼朝を祀る白旗神社がありました。白旗神社は弘安年間の記録の中では八幡様の中にあることが分かっている、寺伝には1200年に頼朝が朝廷から許可をもらって造ったとされています。それを前提にして考えると西に旧廟があるのはわかります。

13 北条氏の伝説

では、どけてしまった北条氏は次にどのような伝説を作り上げたのか。『太平記』の「時政参籠榎嶋事（ときまさえのしまにさんろうのこと）」によれば、時政の前世は箱根法師で、善根をたくさん積んだので、この世に生まれることができた。しかもその子孫は日本国の主となるといっている。これは、大蛇になった美しい女性すなわち江ノ島の弁天様（大蛇＝龍）が言った訳です。

更にこれを受けて新田義貞の稲村ガ崎伝説があります。新田義貞は黄金の太刀を龍神に捧げた。どちらの方角にお祈りしたかという、江ノ島の龍神さんです。他には考えられません。

ここで龍神さんは八幡神であり、日本国の守護者ということ。要は、今まで北条氏の守護者であった龍神に対し、自分の方に移って下さいよと言っているわけです。

14 稲村道（いなむらみち）

そのことを表す遺跡として、霊山の山の中に仏法寺という寺跡が存在します。発掘調査をしてみたら、鎌倉の海が全部見渡せる良い場所です。鎌倉の海を支配することにおいてはなくてはならない場所です。この寺の前には、極楽寺開山以前からあった稲村道が通っていた。新田の鎌倉攻めときは、極楽寺での稲村道の取り合い、その一番の要衝を仏法寺という寺が押えていたのでその取り合いになったと理解しています。

極楽寺坂の上、成就院の裏山のところに五合榎（ごんごうます）という四角い榎のような土地がある。それが13世紀の中ごろには出来上がっていた。このことから尾根筋に近いところに道が通っていたのではないかと推測できるのです。成就院の境内を分断する形で極楽寺坂が通っている。成就院の持っていた境内地で一番まとまっているのが今の月影ヶ谷。その裏山に一升枧という枧形がある。つまり成就院は切通開鑿以

前の交通の要衝の五合枧と一升枧を押えていたんです。

15 登録活動によって見えてきたこと

世界遺産登録という課題によって、鎌倉がどういう場所かということを見直す良い機会となりました。鎌倉で武家の王権が成立し発展の基礎を築き、土地に根ざした文化が開花しました。そこが一番大事だと気づきました。

世界遺産は文化を考える一つの切り口です。世界遺産に登録されるためには条件があります。一つは国の法律によって遺産が確実に保護されていることが必要です。日本の場合、それは文化財保護法で、国指定史跡に指定をしなければいけない。そのため、大仏殿跡、北条義時の法華堂跡、荏柄天神社の境内、一升枧、極楽寺境内などを指定し、条件整備をしてきました。今後は、保存管理計画の策定があります。

それとともにストーリーがなければいけない。普遍的な価値は何なのか。

鎌倉の中にはたくさんの文化財があって、例えば近代の洋館にもとても良いものがあります。国の指定史跡になっていないお寺もたくさんあります。

英勝寺は現在（2007年10月時点）山門の復興をしていますが、江戸時代初期の伽藍がここほど揃っているところは全国にもない。ですが国の指定史跡にも世界遺産の候補にもなっていない。それは何故かという、英勝寺は江戸時代の徳川氏の拠点であって、武家が自ら初めて作った部分ではないからです。

16 歴史都市

鎌倉の一つの在り方として、歴史都市という形での登録のしかたというのがあるのだらうと思います。しかし、世界遺産の中で歴史都市というのは、基本的には石文化の都市が前提で、いわゆる有機物でできている文化はあてはまりません。武家の政権と、

その文化を伝えるものを集めて、一つの意味を表すものとして登録をめざしています。京都や奈良も同じです。

世界遺産は、国の法律で守られていなければならないという前提があります。

では、例えば家を建てる時、鎌倉全体を許可制にするのか？埋蔵文化財に影響があったら家を建ててはいけないことにするのか？

極端な言い方をすると、そういう法律を整備しないと鎌倉全体を歴史都市として世界遺産に登録することはできない。日本の法律はそうになっていない。

文化財保護法で一番苦労するのは、指定する時に、地権者の承諾を得ないといけませんが、例えば、旧鎌倉中を指定するとなると人口の半分の8万人の承諾を得るというのは現実問題としてできません。ですから形としては、どうしても集合体で全体を表すことになります。

遺産の環境を守るエリアをバッファゾーンと言い、世界遺産の中ではバッファゾーンを確保しなければいけないことになっています。鎌倉の場合は古都保存法があり、風致地区があり多くの部分が管理されています。

昭和40年代から建物の高さを15メートル以下にしてくださいとお願いしていて、とりあえず定着しています。その部分は地権者の方々の了解をほぼ得られています。バッファゾーンを形成する新しい街づくりが始まったと理解していただいていたらいらうと思います。

明治・大正・昭和期に鎌倉同人会というのがあって、鎌倉を守るためにいろいろな活動をしてきました。戦後、御谷騒動が持ち上がり、市民あがての緑地保全運動につながり古都保存法を制定させ、その延長線上に常盤の保存問題があってやっとひと段落

しました。

今度は、まちをどうするのかという問題、それと鎌倉の引き継いできたものをどう評価し伝えていくか、という中に世界遺産登録の動きがあると考えていただければと思います。

世界遺産は登録することが目的ではありません。むしろ登録して何をどう伝えていくかという枠組みを作ることが世界遺産の大きな目標です。



永福寺イラスト 木村春美画

17 鎌倉にあったまちづくり

もう一つはまちづくりを、誰かから押し付けられたものでなく、世界遺産にふさわしいまちづくりをみんなで考えていきたいと思います。鎌倉の町はほとんど昭和30年、40年代にできてきたといっている町です。震災で崩れ、復興し、戦災で東京、横浜から鎌倉に人が移ってきました。列島改造の中で開発が行われ住民も増えてきました。そういう意味では多くの方々が新しい住民です。

そういう中で鎌倉にあった町づくりはどういうものかを自分たちで考えていく。それを作り出していく一つのターニングポイントとして世界遺産を考えていければと思います。